

## 病害虫情報 NO. 3

## いもち病の多発生に注意！

## [現在の状況]

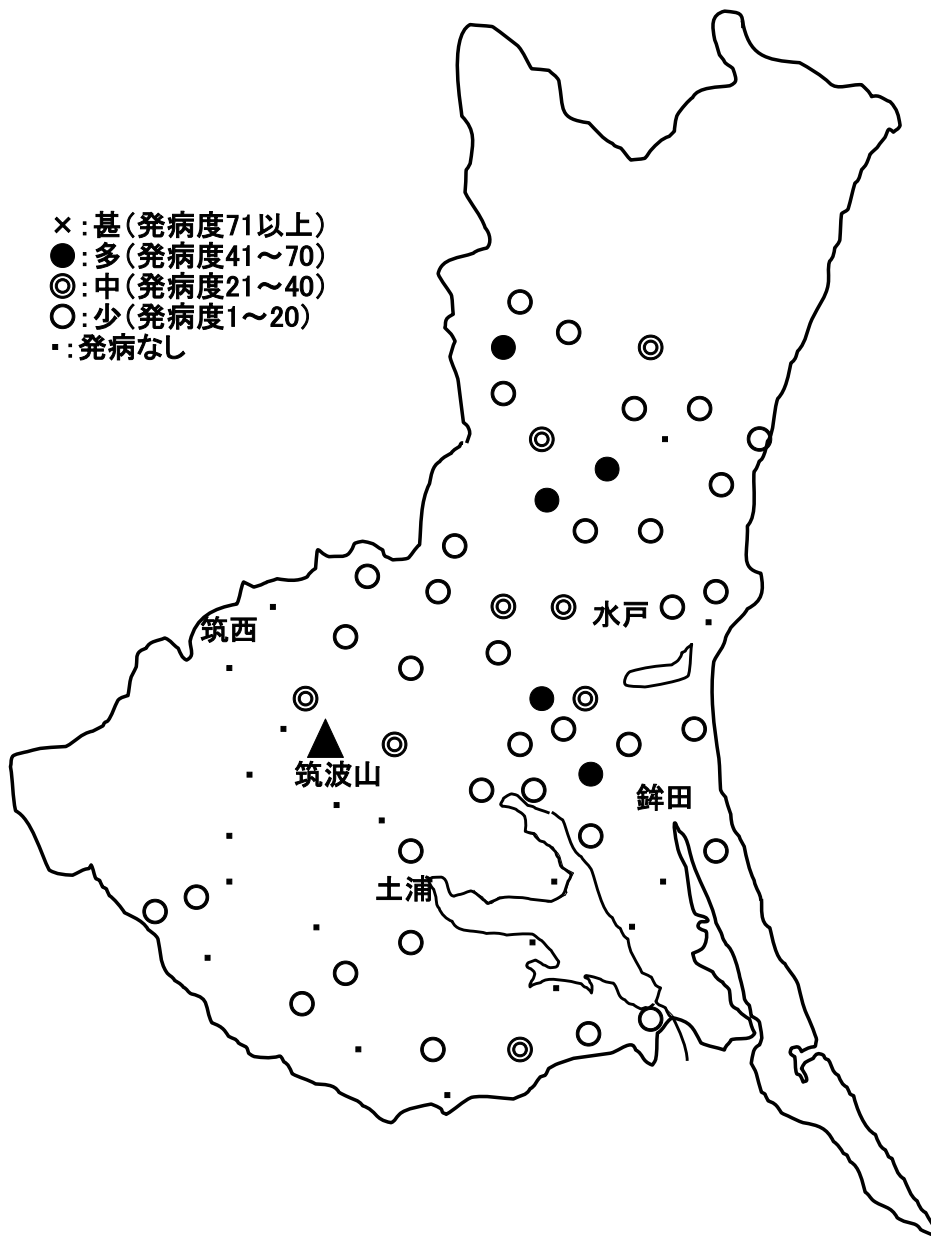
1. 7月上旬現在、いもち病の発生地点率及び発病度は平年より高い(図1)。特に葉色が濃い水田や、日当たりの悪い水田等では発生が多い。
2. 例年発生が少ない県南及び県西地域の平坦部でも発生している。
3. 現在葉いもちの発生が多い水田では、防除が必要である。また、現在発生が少ない場合でも、7月上旬の気象は、いもち病の感染に好適な条件であったため、今後発生量は増加すると考えられる。

## [防除対策]

1. 水田を観察し、多数の病斑を認めた場合は防除を実施する。
2. 置苗はいもち病の発生源となるため、土中に埋めて処分する。
3. 窒素過多はいもち病の発生を助長するため、穂肥は適正に実施する。
4. 葉いもちの多発ほ場では、穂いもちを対象に穂ばらみ期と穂揃期に防除を行う。防除薬剤は表1を参考にする。7月中旬に粒剤を散布すれば、穂いもちの防除効果がある。なお、粒剤施用後は4～5日間湛水状態にする。
5. 薬剤防除の際は、周辺作物への飛散に充分注意する。
6. 例年梅雨明けとなる7月20日頃になっても曇雨天が続く場合は、葉いもちも増加するとともに、穂いもちの発生につながり、被害が拡大する恐れがあるので、このような場合は必ず防除を実施する。

表1 イネいもち病に登録のある主な薬剤(平成18年7月5日現在)

薬剤名	希釈倍数または 使用量	収穫前日数 または使用時期	本剤の 使用回数	有効成分-有効成分 の総使用回数
葉いもち及び穂いもち				
アミスターエイト	1,000～1,500倍	収穫14日前まで	3	アゾキシトロン-4(本田3)
フジワン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで	3	イプロチオラン-3
ラブサイドフロアブル	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	6(穂ばら み以降4)	フサイト-6(穂ばら み以降4)
ヒノザン乳剤30	1,000倍	収穫21日前まで	3	EDDP-3
穂いもち				
コラトップ粒剤5	3～4kg/10a	出穂30～5日前	2	ビロキロン-3(育苗箱1,本 田2)
フジワン粒剤	3～5kg/10a	出穂30～10日前	3	イプロチオラン-3
キタジンP粒剤	3～5kg/10a	出穂20～7日前	2	IBP-3(粒剤は2)
アチーブ粒剤7	3～4kg/10a	出穂30～5日前	3	フェノキニル-3
コラトップパック	小包装10～13個 (500～650g)/10a	出穂30～5日前	2	ビロキロン-3(本田2)



地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)		発病度		程度別発生地点数				
	本年	平年	本年	平年	甚発生	多発生	中発生	少発生	無発生
県北 (29)	93	66	17.9	8.4	0	5	5	17	2
鹿行 (6)	67	44	6.0	4.0	0	0	0	4	2
県南 (19)	58	25	6.2	1.4	0	0	2	9	8
県西 (12)	42	8	4.8	0.3	0	0	1	4	7
全県 (66)	71	37	11.1	3.8	0	5	8	34	19

図1 調査地点におけるいもち病の発生状況 (7月上旬)

※いもち病発病度の目安 (正式な算出方法は防除所にお問い合わせ下さい)

発病度 1 : 25 株に 1 株の割合で病斑がみられる。株あたりの病斑は少ない。

発病度 10 : 25 株に 10 株の割合で病斑がみられる。株あたりの病斑は少ない。

発病度 25 : 調査した株全てに病斑が認められるが、病斑は比較的少ない。

発病度 50 : 調査した株全てに多数の病斑が認められる。

